

**日本プロテオーム学会（2021年～2023年理事）**  
**2022年第3回(臨時)理事会 資料**

開催日時 2022年11月19日(土) 15:00～17:00

会場 安協サービスセンター会議室(横浜市中区元浜町4丁目36) 会議室1

参加者(50音順, 敬称略): [現地参加] 荒川憲昭、荒木令江、奥田修二郎、大槻純男、川島 祐介、川村 猛、河野 信、紀藤圭治、小寺義男、小林大樹、杉山直幸、武森信暁、堂前 直、肥後大輔、若林真樹  
 [オンライン参加] 足達俊吾、川上隆雄、小迫英尊、近藤 格、田中恒平、増田 豪

欠席者(50音順, 敬称略): 木下英司、岩崎未央、小田吉哉、高尾敏文

### 1. 会長挨拶

- JPrOS2022での理事会は時間がタイトであったため議論が勧められなかった内容について、改めて今回、臨時の理事会として議論を行うこととした。JPDM セミナー、編集委員会と合わせての開催となっている。
- 次回第4回理事会は1/20~22を予定(富山)、今回と同様JPDM セミナー、編集委員会と合わせての開催とする(JPDM セミナーでは、実際に論文の投稿までを行うセミナーを行っており、次回は学会通信で参加者を呼びかけ、旅費支援も検討する。また、今回同様ハイブリットとする予定)。

### 【報告事項】

#### 1. 会員数(2022年11月17日現在) [川島]

種別	会員数
個人会員	個人会員 508名(個人会員:402名 <sup>※1</sup> , 個人会員(法人登録):106名) (昨年:552名、一昨年:545名、本年度新規入会者:22名)
学生会員	353名(213名 <sup>※2</sup> ) (昨年:327名、一昨年:298名、本年度新規入会者:32名)
法人会員	13社(昨年 13社、一昨年 13社)
合計	861名+13社(昨年:856名+13社)

※1 2019-2021年度会費未払い者508名を除く(昨年:449名)

※2 メール不達者除外

- 学生会員は、現状自己申告となっており現在も学生であるかどうかは不明、今後確認の対応が必要かもしれない。
- 法人会員はすでに新規の参加希望があるので来年度増えるかもしれない。

次の対応: 学生会員の確認をするかどうか検討する。

#### 2. 日本プロテオーム学会2022年大会報告 [小寺]

(別添資料1)

- 参加者266名、企業セミナー4社、広告11社、展示21社であった。

- お金の面では、直前にコロナ感染拡大対応が必要になったこともあり、64万円(未払い分は含まず。未払分は(Akhilesh氏への謝金と要旨登録料)を含めると80万円程度)の赤字が出る予定。

次の対応：なし

### 3. トレーニングコース報告 [川島]

- 2022年10月20、21日にかずさDNA研究所で行なった。SP3, DIA-MS, DIA-NNについてのトレーニング、参加者20名(うち学生は3名であった)。参加者は経験のある方が多かった。(盛況であり参加枠がすぐに埋まってしまったため、JPROS外への周知をしなかった。今回は上級者向けであったので、裾野を広げるためにはもう少し基礎的な内容でも良いかもしれない)
- 約1万円の余剰金は次回に運用する。
- 今回は川島先生に、完全に任せきりになっていた、もう少し委員で仕事を割り振る形で良かったかもしれない。

次の対応：次回のトレーニングコースの内容作成。

### 4. JPrOS2023 準備状況 [紀藤]

- 新潟大学松本先生が大会長、9月に3名で会場見学をおこなった、講演会場、ポスター会場、提示会場の場所など移動も容易そうで問題ないことが確認された。また、ホテルが隣にあり、懇親会、宿泊も容易であると考えられる。
- 10月に、第一回実行委員会を開催した。大会ホームページも公開済み(現状はほぼトップページのみ)。11/22に第一回プログラム委員会を開催予定(プログラムとして、2022年大会お同様、大会前日の午後にも何かを企画する予定だが内容は未定)
- 重要：展示、ランチョンセミナーの会社への参加者募集について、会社での来年度予算の締(外資系企業は12月中が多い)があるので、できる限り金額等が決まっている必要がある(11月中には決定予定との回答)。

次の対応：大会実行員による様々な対応を進める。

### 5. HUPO 2022 の Travel Award について [近藤]

受賞者(各7万円ずつを副賞として授与)

- ◆ 国立がん研究センター希少がん研究分野 野口 玲 (研究員)
- ◆ 京都大学大学院薬学研究科 中井郁那 (大学院博士課程)
- ◆ 国立がん研究センター研究所 希少がん研究分野 小野拓也 (大学院博士課程)
- ◆ 国立がん研究センター研究所 希少がん研究分野 安達雄輝 (大学院博士課程)
- ◆ 京都大学大学院薬学研究科 小形公亮 (大学教員)
- ◆ 京都大学大学院薬学研究科 西田紘士 (大学院博士課程)
- ◆ 新潟大学生体液バイオマーカーセンター 柳田憲吾 (特任助教)

近藤先生より以下の意見が出された。下記検討事項の部分で続きの議論がなされた。

- HUPO, AOHUPO の Award 公募と JPrOS の Award 公募が重複するため整理が必要。
- HUPO, AOHUPO の Award は JPrOS に推薦の案内が送られる。人数も時期も不確定、募集期間も少ないため JPrOS での事前準備が必要。
- Award の目的を明確化する必要がある。経済的援助と考えるか、優秀な方の賞と考えるのか絞る必要がある。
- 応募者が少ないので、現在の 40 歳以下、博士号取得後 8 年以下という枠を改訂しても良いのではとの意見が出された。
- 同じ研究室から複数の参加者が出ていた。同じ研究室の重複音場合、研究室の長から順位を提出していただくのが良いのではないかという意見が出された。

次の対応：下記 Award の議論の部分に記載。

### 【審議事項】

理事任期の変更と人数について

(別添資料 2)

- 現在理事の任期は 3 年（連続 2 期まででその後、1 期（3 年）は理事から外れる）であるが、次の理事より任期は 2 年（連続 2 期 4 年まで、その後、1 期（2 年）は理事から外れる）とする案に関して承認が得られた。（発案の理由：新陳代謝を高める、3 年は長く責任が重い、連続 2 期の後の 3 年のブランクが長く、理事に戻った場合の対応が困難などの理由による。）
- 指名理事（会長が決定）の定義が曖昧であるとの意見が出され、理事は 20~25 名（選挙で 20 名以上を選出し、指名理事は最大 4 名とする）という案に関して承認が得られた。
- 出された意見：指名理事をわざわざ設置する意義は何か、指名理事の仕事の定義は必要ないか、との質問があり、指名理事については、選挙だけでは選びきれない仕事（庶務的な部分やその他）の担当理事については、指名理事としてお願いさせて頂くことが適当だと考えるとの回答がなされた。他学会ではあえて理事にせず、委員や評議員などの役職にしているのでそれでも良いのではないかとの意見も出された。

次の対応：執行部で規約改訂案の作成と理事会で確認して改訂。

#### 1. 名誉会員の推薦と規程の確認

- 候補の先生方について、推薦書を準備し、理事会で名誉会員の審議を行うことが確認された。
- また名誉会員について、理事会で決定することが確認され（決定者の曖昧さを排除）、名誉会員決定後（翌年度ではなく、決定直後）から大会参加費及び会費の免除をすることについて承認された。名誉会員決定の時期は今後の検討事項となった。

次の対応：執行部で推薦書を準備し、1月の理事会で確認して改訂。賞状（記念品など）の準備。執行部で規定改訂案の作成と理事会承認。

### 【検討事項】

#### 1. 2023 年度以降の Travel Award, Presentation Award について

(別添資料 3)

- JPrOS award の目的は参加者を増やすための経済的支援とすることが確認された。

- Travel Award とすると、旅費にしか使えないため Presentation Award と統一し、学会参加の何にでも使えるようにするのが良いのではとの意見が出された。
- HUPO, AOHUPO の Travel Award の対応のために、JPrOS の中に審査会を準備、選考規定を作ることが必要との意見が出された。ひとまず1年ごとにも変わっても良いが何かしらの基準が必要。順位づけについて別の学会では、学会の参加要旨などでの審査を5名程度で行い点数をつけている。いつその募集するのか、経済的な状況、学年などを考慮に入れるのかなど議論がなされた。
- そもそも、応募者を増やすためのアイデアを出す（アナウンスを広げる対応）必要があるとの意見も出された。

次の対応：近藤先生中心に国際、学術委員の方に選考規定のたたき台を作って頂き年内に理事会に送付、1月の理事会で決定する予定（来年度から実際に運用予定）。

## 2. 繰越金の利用について

繰越金が増加傾向にあり利用方法を考える必要があるということで、以下の意見が出され、引続きの検討事項となった。

- 年大会に返却の必要のない形での支援を行うことを検討（大会は学会にとって最も重要であり、会員にとって最も公平な使い方と考えられる。また、大学以外の先生に大会長を依頼する際、大学施設が使えないことは、予算的にも大きな負担でもあるため大会長を引き受けていただきたくするためにも、大会への支援として予算を使用することも必要ではないかという意見が出された。）下記連絡事項の項目でも引き続き議論が行われた。
- Award を増やすことを検討する（海外学会も再開されつつあるため）

次の対応：今後も継続議論。

## 3. AOHUPO 理事の選出

現在、石濱先生（今年末までの任期）が理事

## 4. HUPO 理事候補の選出

現在、近藤先生（後2年の任期）と荒木先生が理事（今年までの任期）、荒木先生が今年末までであるため、2人の理事を維持したい。

## 5. HUPO ECR メンバーの選出

現在、岩崎先生が ECR メンバー（来年までの任期）。

（年齢制限、博士取得後について要確認）

- 上記三種の理事の立候補について学会通信で配信し（12月31日締め切りとして）立候補者を募るが、立候補者がいない場合でも1月の理事会で立候補者を決定したいので、候補者について各自検討をとの話がありました。また、AOHUPO については、jPOST のメンバーに立候補して頂くのが良いのではとの意見も出された。

次の対応：1月の理事会で立候補者を決定する。

## 6. イニシアティブに向けて

Top-Down Proteomics [武森]

- 第1回セミナーをプレコンgresとして開催できた。第2回を web で開催予定、前回は男性ばかりだったので、今回は女性のみで開催を考えている（候補者検討中）。
- ホームページについては、前回利用したものがあるのでそちらを利用、Webinar の開催方法について（前回は zoom）今回は北里大学の 300 名の zoom の利用が可能と考えられる、今後は未定。
- オンサイトの場合はスポンサーが必要だが実質装置として対応できるのが一社程度になるかもしれないとの意見が出された。
- スポンサーを依頼する場合は MS メーカー全社に声をかける必要がある。

**次の対応：武森先生が第二回 Web 会議を開催する。**

LC-MS による希少難病の診断の実現に向けて [小寺]

- かずさ DNA 研究所の小原先生との相談の中で、希少難病（333 種類指定されている）症状のみでの診断が行われている疾患もある。多くが遺伝性の疾患であり、かずさで遺伝子解析を行っているが、次世代シーケンサーは少数検体に関しては費用と時間を要する。また遺伝子から原因がわからないものも多い。→タンパク質レベルでの解析で解決できるものがあるのではないかという考えが出された。
- 小規模でも良いのでタンパク質の解析により診断が可能であるという証拠を得たい。国としてもサポートが得られる分野と考えている。来年の 1~2 月にオンラインの研究セミナーを開催し、タンパク質レベルでの解析の可能性を専門のお医者さんに話していただく。予算の取得も含めて、JPrOS のイニシアティブとして進めていきたいとの意見が出された。引き続き検討課題とする。

**次の対応：今後も継続議論。**

#### 7. 年間スケジュールの作成と通知

- 年会等に関わるスケジュールとして作成し、学会通信として配信したい。HUPO, AOHUPO への参加を促すことにもつながると考えられる。また、理事の中での準備が後手になるのを防ぐこともできる。

**次の対応：執行部が年間スケジュールを作成し、学会通信として配信する。**

#### 8. HP の充実（更新頻度を上げるために） [紀藤]

現在 HP の更新頻度が低いことについて以下議論された。

- 現在、大幅な変更についてはデザインリンクさんをお願いしている。大幅な更新はお願いできるが、小さな更新についてはお願いするより自前での更新の方が容易、しかしその作業が少し滞っている。HP のプログラム構造を更新しやすい形式に大幅に作り変えることを検討する必要がある。しかしながら現状のプログラム構造を今後整理し理解することから進める必要がある。

**次の対応：HP の更新の方向について河野先生、紀藤先生でご相談（学会通信などの定期的に更新すべきものなど現状で可能なレベルでの役割分担などの対応と、今後の HP の改善に向けての対応と**

に分けて) いただくことに決定。

## 9. その他

### 平野先生からのご意見 (シニア会員制度)

名誉会員ではないシニア会員 (参加費の免除など) などの制度があっても良いのではとのご意見 (名誉会員はハードルが高いため、シニアの方への別の制度があっても良いのではとのお考え) に対し、以下のような意見が出された。

- 学会参加のページにシニア (定義を記載、希望者) のボタンを作っても良いのでは (自己申告となり確認は出来ないという問題もある、シニア扱いされたくない方もおられる。
- シニア会員を設定するよりも、65 歳以上の方を一律にシニア会員にするのがより簡単ではないだろうか。
- 参加費は、本当にシニアの方のハードルになっているのか、単純に事務作業が増えるだけになっていないかの検討が必要。
- そのものの趣旨として、実際の経済的効果というよりは、リタイアされた後も是非年会に来ていただきたいという学会の姿勢を示すのが重要。

次の対応：今後も継続議論。

### 平野先生からのご意見 (プロテオミクス辞典)

プロテオミクス辞典について内容を更新してはとのご意見に対し、以下のような意見が出され、引き続きの検討事項となった。

- Google で調べれば良いのではないかという意見の一方、インターネットではすぐに正しい情報にたどりつけない。
- 辞典の編集はかなりの労力 (強いリーダーシップ) を要することから誰が作業をするのかという議論があった。今後の更新の問題、過去の自分たちの文章を使うこと、ネット上の文章を使うことどちらについても著作権の問題もある。名誉会員の先生に編集して頂くという意見に加え、名誉会員の先生に言葉のリストアップをしていただき、ネット上の説明のリンクをつける形ならば労力が軽減されるのでは。

次の対応：今後も継続議論。

## 【連絡事項】

### 1. 各委員からの連絡事項

- Proteome Letters が 2022 年 7 巻の 2 号目が刊行予定であることが報告された。
- 年會に学会から金銭援助を行うかどうかについて以下議論がされた。  
年會に準備金について、現状 50 万円を入金し、後から返金を受けている (元々は、50 万円は会場を借りる際の前金として始まっている、過剰金は学会に返ってくるシステム)。50 万円 (あるいは 100 万円) を返金なしの収入とするのが良さそうだが、あるいは単純に赤字を気にしないで良いという形にするのかという意見について議論がなされた。お金があればあるほど企画を増やし使ってしまうものなので、50 万円を返金なしの収入とする場合それが常態化し

てしまうのではとの意見も出された。継続検討事項となった。

**次の対応：今後も継続議論。**

2. 定例理事会の開催について

1/21 に理事会を開催予定（場所は富山を予定）（今回同様、2023年1月20,21,22のJPDMセミナー編集委員会と合わせて行う）。